

安城市は市制施行 50周年を迎えます

安城市は、昭和27年5月5日に市制を施行し、
本年は市制施行から50周年の記念すべき年となります。

半世紀にわたり安城市を築いてきた先人の努力に感謝しつつ、
この節目の年が新たな時代のまちづくりの礎となるよう、
市民の皆さんと一緒にその意義を共有する機会を、
記念事業という形で作っていきます。

◆安城市の歩み

わたしたちの安城市は、昭和27年
5月5日に県下13番目の市として市
制を施行しました。昭和27年に人口
3万7000人余でスタートした安
城市は、その後、明治村及び依佐美
村の一部、旧矢作5地区、碧海郡桜
井町を合併し、今や人口16万300
0人余の都市として発展を続けてい
ます。

明治39年5月1日の町制施行以来、
明治用水の流れとともにたゆみない
歩みを続け、市制施行当時は「農都」

と呼ばれた安城市。中部経済圏の中
心・名古屋市の通勤圏内という地理
的条件にも恵まれ、昭和35年ごろか
ら工場の進出、住宅団地の建設が盛
んになり、急速に都市化が進展。昭
和63年3月には新幹線三河安城駅が
開業し、西三河のゲートエリアとし
て発展してきました。

21世紀を迎え、人と自然が共生で
きるまちをめざし、西三河の中核都
市としての役割を担うとともに、市
民参加のもと、望ましい都市像「う
るおいと活力にみちた創造性あふれ
るまち」づくりを進めています。



市制施行のニュースを当時の新聞は、「文化農都の建設へ」「農都安城市生る」といった見出しで報じています。5月5日は約250人が参列して市役所開所式が行われました。それまで45年間掲げられていた「愛知県碧海郡安城町役場」の看板に代わって、「安城市役所」の看板がみかげ石の門柱に掲示され、安城は「市」としてスタートをきりました。



▲21世紀の塔「センチュリータワー」
(新幹線三河安城駅南口)